

派遣教員がいない補習授業校の支援

前ロサンゼルス補習授業校 教頭

福岡県柳川市立大和中学校 教諭 武藤 泰彦

キーワード：補習校支援，現地採用講師研修会，指導の工夫・改善

1. はじめに

ロサンゼルス補習授業校に赴任して3年目の平成23（2011）年度、派遣教員がいない補習授業校を支援する機会を得た。外務省、文部科学省共催の北米西部地区補習授業校現地採用講師研修会（以下、研修会と記す。）である。本研修会は、本邦から教員が派遣されていない補習授業校における現地採用講師を対象に、教員として求められる学習指導の内容・方法等の基礎的・基本的事項について研修を行い、その資質及び指導力の向上を図るとともに、邦人の児童生徒への教育の充実に資することを目的としている。

本邦から教員が派遣されていない北米西部地区の各補習授業校が持ち回りで幹事校を立て、本研修会が運営されている。開催にあたっては、本邦から派遣された派遣教員が指導講師として要請される。該当年度では、アリゾナ学園補習授業校が幹事校となっていたため、同僚派遣教員と2名で7月末にアリゾナ州に指導に赴くことになった。

2. 研修会受講対象

公館が管轄し、本邦から教員が派遣されていない補習授業校に所属する現地採用講師が研修の受講対象者となる。開催地区は、世界で北米4地区（東部・南部・中西部・西部）、英国地区、ドイツ地区、フランス地区、北欧地区に分かれている。各補習授業校から少なくとも1名の現地採用講師が参加することが予定されている。

下に北米西部地区を一例としてあげ、5つの公館が管轄する11の補習授業校を記す。

地区名	管轄公館	補習授業校名
北米西部	在サンフランシスコ総	ポート・オブ・サクラメント補習授業校 セントラルバレー日本語補習校 ラスベガス学園 グロスマン・アカデミー
	在シアトル総（在アンカレッジ駐）	アンカレッジ日本人補習学校
	在デンバー総	デンバー日本語補習授業校 コロラド補習授業校
	在ロサンゼルス総	アリゾナ学園
	在カルガリー総	サスカトゥーン補習授業校 エドモントン補習授業校 カルガリー補習授業校

3. さまざまな課題が山積している

本研修会の実施にあたり、各補習授業校から質問が集約された事前アンケートのまとめが送付されてきた。小学部低学年から中学部までの国語、算数・数学、理科、社会、生活科の各教科における指導上の悩みや教育制度に関わる課題が山積していた。同時に、それぞれの学校が課題解決に取り組むために、試行錯誤しながら指導の工夫が行われていることを察する内容でもあった。

そこで、各補習授業校の質問をカテゴリー別に分類すると、概ね次のような課題が明確となった。

教科等	課題の内容
学校運営について	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学年目標, 学校目標の設定について (2) 保護者との連携, 対応 <ul style="list-style-type: none"> ①子どもが意欲をもって取り組むように家庭との連携 ②家庭学習を重視しない保護者への対応
国語の学習指導について	<ul style="list-style-type: none"> (1) 漢字の定着に向けて <ul style="list-style-type: none"> ①書き順, はね, はらい, とめの指導と採点方法 ②音読み, 訓読みの指導 ③漢字指導の工夫 (2) 1時間の中で, 漢字の時間と読解の時間の使い方 (3) 読解指導のポイント (4) 家庭学習について <ul style="list-style-type: none"> ①家庭学習のできるウェブサイト ②書き言葉の習得を助ける家庭学習のあり方 (5) 単元精選について (6) 電子辞書, 和英辞書の利用について (7) 発表方法, 発問のポイントについて (8) 読書の取り組みについて (9) 作文指導について (書かせた後, 何をチェックしよう指導するか) (10) 能力に差のある子どもたちへの指導のポイント (11) 話す力, 書く力のつけ方
生活科の学習指導について	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生活科の指導
算数・数学の学習指導について	<ul style="list-style-type: none"> (1) 単元厳選について (2) 能力に差のある子どもたちへの指導のポイント (3) 算数ゲームの紹介 (4) 計算ドリルを効果的に活用するポイント (5) 文章問題への対応 (苦手意識? 算数・数学用語が理解できていない?) (6) 導入の工夫 (例 小4分数) (7) 考える力をつける指導の流れ (8) 日本的解き方とアメリカ的解き方をする子どもへの指導
社会の学習指導について	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学び方の指導について <ul style="list-style-type: none"> ①小3で, 自分たちの住んでいる市について, 勉強する単元があるが, 子どもの実態から1つの市だけを勉強するだけでいいのか ②日本を外から見て, 勉強している子どもたちなので, 浅くしか考えられないのでどう指導していけばよいか (2) 家庭学習のできるウェブサイトの紹介 (3) 単元の厳選 (省略してもいい単元) について (4) 日本に帰国する子どもたちのために, 地理と歴史を年度内に交互に教えるのがいいか, 1年で地理, 2年で歴史を教えるのがいいか (5) テスト勉強に役立つ方法はあるか

教科等	課題の内容
理科の学習指導について	(1) 借用校舎のため、学習上の制約をどう考えるか ①理科実験に関するウェブサイト ②理科用具が足りない場合の対応 ③実験などで扱えない単元の指導 (2) 単元の厳選（省略してもいい単元）について (3) 植物の観察日記などの必要性と、実際に栽培しない場合の指導について
その他の指導、対応等について	(1) 図書選定 (2) 担任が書き込めるウェブ (3) クラス分けの基準 (4) アクティビティのために遅刻、早退、欠席者への対応 (5) 進級基準 (6) 年間計画にどの程度行事を取り入れているか (7) 永住と帰国生徒への指導 (8) 成績表のつけ方 (9) 学習障がいがある児童生徒への対応（気をつけておくべきこと） (10) もともと進学を考えていない児童生徒の学力向上、意欲づけの対応

4. 研修の充実に向けて

(1) 「事前アンケートQ&A」資料づくりと活用

上記3の課題に答えるために、学校長や同僚派遣教員に協力と分担のお願いをし、右にあるような「事前アンケートQ&A」冊子の作成に着手した。33ページにわたり、40項目の質問に回答することに時間も費やした分、さまざまな課題に対する考え方や指導方法について丁寧に分かりやすく説明している点で、世界中の補習授業校の実態に依る資料となり、他補習授業校の派遣教員のみならず

Q2	どのようにして保護者と連携、対応していけばいいでしょうか。 (1) 子どもが意欲をもって取り組む保護者との連携 (2) 家庭学習を重視しない保護者への対応
	(1) 子どもが意欲をもって取り組む保護者との連携 子どもの意欲（やる気）を引き出すためには、学校と家庭の協力が欠かせません。幼い子どもを見れば分かるように、子どもは本来、意欲の塊です。しかし、成長するに従い、意欲が見られなくなる子どもが目につきます。やる気がないと思われる子どもは、その背景を考える必要があります。 ①自信がないため、意欲が出ない これまでの失敗経験が重なり、自分で何とかやれそうだという気持ちが弱いために消極的な考えになり、自信が持てず意欲が出ないようになります。意欲のない子どもの背景には、自信のなさがあることを理解しておかなければなりません。 ②意欲を起こさせるきっかけを与える 意欲のない子は、自分の行動に自信がないため、他人の言動に対して敏感です。「こんな

現地採用講師が共通に活用できるであろうと自負している。本研修会でも「事前アンケートQ&A」を配布し、説明や協議に用いたところ、今後の指導において有効な参考資料になるという感想をいただいた。

(2) 授業を通して研修の充実を図る

北はアラスカ、南はアリゾナの範囲にある9つの補習授業校から24人の現地採用講師が集まり、2日間にわたっての研修会であった。講話の多い研修ではなく、年1回の貴重な研修の場となり、遠方より長時間かけて参加した方々のためにも有意義な時間となるように、現地採用講師が模擬授業を、派遣教員が模範授業を行って、各自が実践を振り返った。

①模擬授業の特徴

模擬授業については、事前に書いていただいた略案をもとに自由に授業をすすめてもらった。参加者は児童役である。そして、授業を通して、次のような課題が明らかとなり、参加者全員で協議した。

- ・子どもに説明する時、黒板に向かって話し続けている。
- ・子どもの発言の際の言葉遣いを正す注意がない。
- ・机間指導が行われず、黒板の前からあまり動くことがない。
- ・一人ひとりの子どもに目が届かず、発表していない子どもへの配慮が少ない。
- ・めあてとまとめが黒板に示されていない。

授業者は、生き生きとした姿勢で児童の疑問を大切にしたり意見をほめたりする指導や、適切な指示を出す場面があるなどの良さが見られた。しかし、基礎的、基本的な指導技術が身につけていないこと、授業構想が明確でないことが特徴的であった。



模擬試験で音読している場面

②模範授業の反響

指導案を準備しての模範授業では、授業の導入と展開場面で次のような手だてをとった。

- ・興味を引き出し、課題意識を高める発問
- ・写真や絵などの視覚教材の使用
- ・理由を加えて、自分の意見を述べる場の設定
- ・ネームカードを使って立場を表明する活動
- ・作業が早く終わった子どもへの対応

このような手だてがあれば、教科書の見方や授業構想が変わり、授業が興味深くなるといった意見をいただき、好評を博した。また、指導案作成の目的および書き方について学ぶ機会を設け、模範授業のまとめとした。

③人の授業を見て、自分の授業スタイルに気づく

ロサンゼルス補習授業校において、派遣教員が日頃指導にあたっている現地採用講師の授業をDVD映像で紹介した。視聴後に「教師の表情や児童生徒への励ましの言葉かけ、黒板の使い方、机間指導のあり方、児童生徒との人間関係」等についての感想や質問が出された。自らの授業を振り返り、より良い授業の進め方をイメージする上で効果的だったのではないかと思う。

5. おわりに

本研修会に参加した現地採用講師の方々は、課題意識が高く、多岐にわたる課題を持って臨み、解決に向けて積極的に学びとろうとする姿勢で研修していただいた。充実した研修となったことをインタビューに応じてくれた参加者から聞くことができた。今後の健闘と活躍を祈念し、エールを送る。多くの課題やアクティビティーをかかえ、2つの言語を習得しながら一生懸命立ち向かっている補習授業校の子どもたちと、子どもの学習に対する目的意識や向学心を支える保護者の思いや願いに応える上で、他補習授業校との相互の交流を図り、より良い実践を共有できる本研修会は意義深い。

指導講師としても学んだことが多い。このような機会を与えていただいたことに深く感謝し、お礼を申し上げる次第である。